

# ボクの保険証の名前は「花子」 花子って呼ばれるのが嫌で、 病院に行きません



フルネームで呼ぶのは  
やめてほしいな

ippo.

医療現場では、診察や健康診断などにおいて、性別を区別することも多いため、見た目の性別と戸籍や証明書の性別が一致していないトランスジェンダーは、医療機関に行くことをためらってしまう傾向があります。ある調査(\*)では、トランスジェンダーの21%が、学校や職場での健康診断を受診していませんでした。健康診断を定期的に行かないと、深刻な病気が見逃され、自覚症状が出てきたときには、かなり深刻な状況になってしまうこともあります。これは命にも関わる問題です。こうした問題に対応するため、厚生労働省は2012年に通知を出して、被保険者の申し出によって保険証(健康保険被保険者証)の性別の記載方法を変更できるようにしました。表面は「裏面記載」とし、裏面に戸籍等の性別を記載する方式です。トランスジェンダーも含むすべての人が、より医療にアクセスしやすいようにするにはどうしたらいいのか、是非、考えてみてください。問診票には、苗字や番号で呼ぶことを希望する欄があると良いでしょう。 (\*特定非営利活動法人虹色ダイバーシティ、国際基督教大学ジェンダー研究センター 2016)

このパネルは、平成28年度 淀川区LGBT支援事業の一環として、大阪市内のLGBT当事者の声を集めて制作したものです。LGBTは、以下の4つの単語の頭文字であり、ここでは性的指向や性自認におけるマイノリティ(少数者)の総称としています。

**L** レズビアン 同性を好きになる女性 **G** ゲイ 同性を好きになる男性 **B** バイセクシュアル 性別にかかわらず、同性を好きになることもあれば異性を好きになることもある人 **T** トランスジェンダー 出生届の性別とは異なる性別のあり方を望む人

LGBTは人口の5~8%程度とされていますが、学校、職場、地域など、自分の周囲にカミングアウトできない人も多く、見えにくいマイノリティです。このパネルは、そうした人たちの声を可視化する目的で制作しました。笑顔の裏にも見えにくい「困りごと」を抱えている人たちが自分の身の周りにもいるかもしれない、と、想像しながら見てほしいと思います。

